

様式 1

完了報告書（平成 25 年度）

提出者 吉野裕介

提出年月日 平成 26 年 3 月 26 日

【プロジェクト名】

和文 戦後の東アジアにおける新自由主義思想の受容と展開に関する研究

英文 Study on the diffusion and acceptance of liberal economic thought in East Asian countries

【メンバー構成】

研究代表者 吉野 裕介

幹事

メンバー

【研究のねらいと目的】 (600 字程度)

これまでに代表者が取り組んできた「アジア諸国でのハイエク思想の受容」にもとづいて研究を進める。ここでの主題を、「戦後の東アジア諸国における新自由主義経済思想の受容と展開」と広く設定し、異なる分野の研究者が集うことのできる「ステージ」と位置付ける。それにより、分野・国境をまたいだ国際的研究ネットワークを構築する準備とする。より具体的には、ハイエクの経済思想の、東アジアにおける受容のプロセスを歴史的に再検討する。自由主義思想は欧米で強い影響力を持った思想であると同時に、戦後のアジアにも流入した。ハイエク思想の流入から、どのようにアジアの自由主義経済思想が発展したのかについて、学際的・国際的に議論する土台を作る。

【活動の記録】

2013 年 12 月 6 日 ケインズ学会第三回大会に参加し、吉野裕介が「ハイエクの自由主義経済思想 - 「新自由主義」と「福祉国家」との対比から - 」というタイトルで報告を行った。

2013 年 12 月 13 日 KUASU 次世代PJ研究会（吉野プロジェクト）において、藤田菜々子氏（名古屋市立大学経済学部准教授）を招聘し、「ハイエクとミュルダールの関係性」というタイトルで講演をたまわった。

並行して、橋本努教授（北海道大学経済学部）、太子堂正称准教授（東洋大学経済学部）、原谷直樹講師（群馬県立大学国際コミュニケーション学部）、鳥澤円准教授（関東学院大学法学部）、山中優教授（皇學館大学法学部）らと会合を持ち、ハイエクを中心とする自由主義に関する研究者ネットワークを引き続き構築していくべく活動していくという方向で合意した。

【成果の概要】（800字程度）

本プロジェクトで行った研究は、まず 1.日本や台湾におけるハイエクが受容された過程の、歴史的研究である。具体的には、翻訳の問題を取り上げ、各国でハイエクの著作が、どの分野の学者によって訳され、どのような人たちに読まれ、解釈されていったのかについて検討した。さらに、2.これまで行ってきた日本におけるハイエク研究の意義だけでなく、東アジア全体から見た自由主義経済思想もしくは福祉国家の意義を、共同研究により解明した。戦後の東アジアにとって、ハイエク受容引いては新自由主義の経済思想の流入や伝播は、各国でどのような意味を持っていたかが、ここでの主題となった。具体的には、ハイエクだけでなく、その対極に位置する思想家グンナー・ミュルダールの福祉国家論を取り上げて対比し、考察の準備とした。

さらに、国内および国際的な学術ネットワークの構築も試みた。これまで日本をはじめとするハイエク研究者は、個々の活動が主であった。また、アジア諸国にあるハイエク学会（韓国や台湾）も、ばらばらに開催され、ほとんど交流は無いに等しい。そこで、これらを交流させ、「東アジアの自由主義」を広く議論できるプラットフォームを作る試みを立ちあげるべく活動している。このために、まずは日本国内でそれに関心のある人物の組織化を準備した。

特に、本計画の期間内で具体的に実行できたのは、日本側での若手研究者を中心とした研究ネットワークの構築である。これまでに筆者の経験では、若手研究者を中心に、「アジアでの自由主義経済思想の普及」に関心のある人材の交流に力を入れてきた。そこで、この「次世代研究プロジェクト」の受領を機に、この交流の恒常的な組織化を目指し、研究会や打ち合わせを密に行うという合意が得られた。実際に、共同研究『ハイエクを読む』が発刊され、さらに5月の経済学史学会にて、共同報告を予定している。

【研究業績】

単著吉野裕介『ハイエクの経済思想-自由な社会の未来像』、勁草書房、2014年3月。
共著吉野裕介「第5章 ハイエクの心理学と進化論—『感覚秩序』と『文化的進化』」、桂木隆夫編『ハイエクを読む』、ナカニシヤ出版、pp.115-141、2014年3月。
学会報告 1. 吉野裕介「ハイエクにみる新自由主義と福祉国家の理念—ケインズ主義批判を手がかりに」、ケインズ学会第3回年次大会、専修大学、2013年12月。

【通信欄】